

小山中学校と法務省矯正局の共同プロジェクト

医療少年院跡地の鉄板壁の絵 いよいよ完成！

小山中学校では、法務省矯正局と共同で、旧神奈川医療少年院跡地の工事に伴う鉄板の壁に、絵を飾るプロジェクトを進めてきました。このプロジェクトは、落書きを心配した地域の方の相談からスタートし、小山中学校と少年院の管轄である法務省矯正局の連携で実現しました。

220メートルほどの壁に小山中学校生徒作品34点、少年院院生作品82点を80枚のパネルで飾ります。セレモニー等は行いませんが、11月25日（木）16時頃に完成を迎えますので、お知らせします。取材を希望される際は、下記連絡先までご連絡ください。

小山中学校生徒会が、矯正局の方から少年院のことを伺う中で、今、そしてこれからの社会を生きていく私たちにとって大切なテーマとして『つながり』を提案しました。このテーマのもと、小山中学校と関東近県の少年院に作品を募集したところ、小山中学校から46作品、少年院から128作品が集まりました。7月にはレイアウトに関するイメージを作るためにデザイナーやライターの方々と生徒会がワークショップを行い、「ただ絵を飾るだけではなく、みんなの想いや、テーマである『つながり』の目指すものを理解してもらえる通りにする」ことが決まりました。

○矯正局の方々とワークショップの内容 ・ 完成予想図

ワークショップ
はじめました
『つながり』を
考える

神奈川医療少年院跡地に、新たな少年院の設立が検討されています。今回新設される少年院は、地域にひらかれ、地域とつながる、新時代の少年院を目指しています。そのような少年院を実現するには、管轄する法務省だけでなく、地域の皆さんのアイデアが必要です。そこで（相模原市立小山中学校）の生徒たちと交え、少年院と地域の関係性を考えるワークショップを行うことに、小山中学校の生徒会メンバーとともに『つながり』をテーマにしたさまざまなアイデアを出し合いました。

『つながり』を未来へ

少年院の新設にあたり、当面の間、仮囲いの壁を設置することになりました。その壁に、地域の小・中学校の子どもたちや、少年院の子どもたちが描いたアート作品などを展示し、地域の皆さんに御覧いただきたくと考えています。「壁」とは、つながりを断つ、もつとも象徴的なものです。その壁に対して、小山中学校の生徒たちから『つながり』というテーマが提示されたとき、私は全身を突き抜けるような衝撃を受けました。素晴らしいテーマの提案と、さまざまな『つながり』を考えてくれたこと、うれしく思っています。

少年院が新設されれば、おそらく50年以上はその場所にあり続けることでしょうか。その長い時間のなかで、地域と少年院とがどのようなつながりがあっていくのか。その最初の一步を小山中学校の生徒会の皆さんにワークショップを通して考えてもらおう機会に感じています。子どもたちの柔軟な発想が機になつて、50年先の小山地区は思いもよらないつながりのかたちができあがっているかもしれない。そして『つながり』を次の生徒会に、そして次の生徒会へと次世代につなげていってほしいと願っています。

法務省矯正局少年矯正課 山本宏一



連絡先 相模原市立小山中学校
TEL 042-773-3180
担当者 副校長 金指 正明